

小・中学生からの女性活躍推進事業【豊中市】

総事業費	4,337 千円
交付金額	1,498 千円

地域の実情と課題

令和2年度に実施した本市「男女共同参画に関する市民・事業所意識調査」で性別役割分担意識について、男女ともに「効率性」を重視している結果であった。女性で多かった回答の「夫が外で働いたほうが、多くの収入を得られると思うから」は、労働市場における男女の賃金格差を反映した回答と言え、賃金格差の早急な解消が望まれる。

また、生活全般や家族についての考え方は、男女の役割を固定的にとらえない方向に変化しているが、女性が育児期にいったん仕事を辞めること、家事・育児に専念することを肯定する割合も依然として高い。特に男性においてその傾向が顕著であり、女性のM字型就労パターンを生み出す要因である「家事・育児は女性の仕事」という意識が男性のなかに根深く残っていることを物語っている。

事業の特徴

下記のテーマに基づいて教材を作成
 ≪テーマ≫

- (1) 固定的な性別役割分担意識やアンコンシャスバイアスの解消
- (2) 性の多様性についての理解
- (3) 自分（心と体）を大事にして、相手（心と体）も尊重する心の醸成
- (4) 性別にとらわれることなく、自分自身の将来像を描き、その実現に向け、自分で考え行動できるようにすること

≪教材≫

- (1) 小学生低学年向けのデジタル教材の作成
- (2) 小学生高学年・中学生向けのデジタル教材の作成
- (3) 指導者向けの副読書の作成

事業の効果

身近な家庭における役割分担を通して、性別役割運単意識について学びきっかけとしたほか、地域におけるロールモデルとして女性運転士や性的マイノリティ当事者へのインタビュー動画を掲載し、自らのキャリア形成や働き方をはじめ、性の多様性について考えることのできる教材とすることができた。制作過程では実際の小学校で教員による模擬授業を行い、児童の反応を元に内容へ反映させた。

目的・目標

市立の小・中学生を対象に、男女の違いを自然のものとして受け入れるのではなく、子どもたちが持つ性差は社会的に作られたものであると理解したうえで、男女一人ひとりが、個人として、性別にかかわらず、それぞれの個性を尊重しあうことを学ぶ電子教材を作成する。

連携団体

豊中市男女平等教育推進協議会（豊中市立認定こども園、小・中学校、豊中市人権教育研究協議会、豊中市立小中学校教育研究会（男女共生教育部会）、豊中市教育委員会（学校教育課）、豊中市（人権政策課）、（一財）とよなか男女共同参画推進財団で構成）において教材作成など、事業全般にかかる企画・検討、意見聴取を行った。

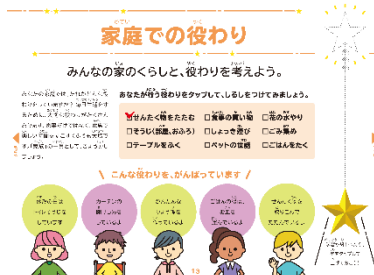
今後の課題

授業を通じて見えてきた課題については豊中市男女平等教育推進協議会で情報共有及び分析を行い、整理する。

小学生低学年向けのデジタル教材の作成

《内容》

- 性別にとらわれることなく、一人ひとりの考えや好みは大切なものであることを知る。
- まわりの人の気持ちを理解しようとし、自分もまわりの人も大切な存在だと意識する。
- 日常の中に無意識の思い込みや決めつけがあることに気づき、みんなが安心して過ごせる場を作るためにできることを考え、行動しようとする気持ちを育む。



小学生高学年・中学生向けのデジタル教材の作成

《内容》

- 性別で生き方を制限せず、互いの個性を大切にすることを理解する。
- 固定的な性別役割分担意識や無意識の思い込みに気づき、自分を振り返る。
- 男女共同参画に関するデータや法律から世界や日本の現状を知り、社会の一員として積極的に参画していく態度を身に付ける。
- どのように生きるか、そのために何が必要かを考え、ロールモデルを見つけて困難に対する問題解決の力を育む。

